

福島第二原子力発電所 プラント状況等のお知らせ

(日報：平成 24 年 4 月 6 日)

平成 24 年 4 月 6 日
東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

福島第二原子力発電所では、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う津波の影響により、1, 2, 4 号機において原子力災害対策特別措置法の規定に基づく該当事象が発生し、同年 3 月 12 日、内閣総理大臣による原子力緊急事態宣言が発出されました。

その後、電動機等の復旧や残留熱除去ポンプの機能回復等の緊急事態応急対策を実施し、同年 3 月 15 日までに全号機で冷温停止を達成しました。

以後、同対策を継続して実施し、電源供給機能や残留熱除去機能の多重化を図るなど、プラントの安定的な冷温停止の維持に努めた結果、同年 12 月 26 日、内閣総理大臣により当所の原子力緊急事態解除が宣言され、原子力災害対策特別措置法に基づく原子力災害事後対策の実施段階に移行しました。

同対策を実施するにあたり、原子力事業者防災業務計画に基づく復旧計画を策定し、平成 24 年 1 月 31 日、経済産業大臣、福島県知事、楡葉町長、富岡町長に提出しました。

今後、本計画に基づき、プラントの冷温停止維持に係わる設備等の復旧を進め、さらなる信頼性向上に努めてまいります。

本日午後 3 時現在のプラント状況等について、別表および下記のとおりお知らせします（下線部が新規事項）。

○1 号機原子炉建屋における油漏れについて

本日（4 月 6 日）午前 9 時 28 分頃、1 号機原子炉建屋 6 階（管理区域*¹）において、スタッドテンショナ*²の点検準備を行っていた協力企業作業員が、同設備を設置してある床面に油が漏れいしていることを発見し、午前 9 時 42 分頃、当社より双葉広域消防本部へ連絡しました。

その後、消防本部による現場確認を受け、午後 0 時 40 分、当該油漏れについては消防法に基づく危険物施設からの漏れいには該当しないと判断されました（公表区分：その他）。

発見した時点で油の漏れいは停止していました。漏れた油は同設備の作動油約 250 リットルで、その内、床面（堰内）に約 32 リットル、残りの約 218 リットルはファンネル*³から除染廃液受けタンク*⁴へ流入したものと推定しています。

本事象による外部への放射能の影響はありません。

*** 1 管理区域**

放射線による無用な被ばくを防止するため、また、放射性物質による放射能汚染の拡大防止をはかるために管理を必要とする区域。

*** 2 スタッドテンション**

原子炉圧力容器蓋の止めボルト取扱装置。

*** 3 ファンネル**

各建屋の配管や機器からの排水を受けるタンクに導くために、水をうけるための中間枡。

*** 4 除染廃液受けタンク**

機器等を除染した廃液を受けるタンク。

○3号機原子炉格納容器内の目視点検終了について

3号機の原子炉格納容器内の点検については、平成24年2月14日に所員用エアロックを開放し（平成24年2月14日お知らせ済み）、格納容器及び格納容器内の設備の外観目視点検を実施してまいりました。

平成24年4月5日までに、目視点検が一通り完了し、その結果、原子炉冷却材の漏えいがなかったこと、また、格納容器内の各設備・機器・配管等に大きな変形・損傷等はなく、冷温停止機能に影響を及ぼすものはなかったことを確認しました。

なお、プラント停止後の一時的な高温環境の影響による格納容器内面塗装面の一部はがれや、湿度環境等の影響による一部機器表面の錆等が見られたものの、いずれも冷温停止機能に影響を与えるものではありませんでした。

今後、格納容器内も含め、機器等の詳細調査を実施してまいります。

添付資料：3号機原子炉格納容器内の目視点検結果

以 上

福島第二原子力発電所 プラント状況（平成24年4月6日 午後3時現在）

別表

		1号機	2号機	3号機	4号機	参 考
原子炉の冷却	原子炉の状態	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	●冷温停止とは、原子炉水の温度が100℃未満で原子炉が未臨界の状態をいう。 ●左記の水温は午前6時現在の温度。
	原子炉水の温度	27.1℃	25.1℃	27.1℃	26.7℃	
	残留熱除去系（A）	運転中	待機中	運転中	運転中	●残留熱除去系1系列と原子炉冷却材浄化系にて原子炉の冷却を行っている。 ●原子炉冷却材浄化系は、原子炉水を浄化する装置だが、原子炉の冷却機能も有する。残留熱除去系2系統が停止したとしても、本系統により、原子炉の冷温停止状態を安定的に維持することが可能。
	残留熱除去系（B）	待機中	運転中	待機中	待機中	
	原子炉冷却材浄化系	運転中	運転中	運転中	運転中	
使用済燃料プールの冷却	燃料プール冷却浄化系	運転中	運転中	運転中	運転中	●使用済燃料プールの水温を65℃以下に保つよう、燃料プール冷却浄化系で冷却している。 ●左記の水温は午前6時現在の温度。
	使用済燃料プール水の温度	27.8℃	25.6℃	25.9℃	23.8℃	
外部電源		受電有	受電有	受電有	受電有	●当所の外部電源は、富岡線1号・2号（500kV系）、岩井戸線1号・2号（66kV系）の4回線がある。
非常用電源	非常用ディーゼル発電機（A）	復旧作業中	待機中	待機中	待機中	●外部電源喪失時のバックアップとして、非常用ディーゼル発電機2台が動作可能な状態を確保している。なお、非常用ディーゼル発電機は、複数の号機で共用することが可能である。 （1号機は、2～4号機の待機中の非常用ディーゼル発電機から受電可能）。 ●発電所構内には、全交流電源喪失時に原子炉や使用済燃料プールに注水するための電力を供給する電源車を配備している。
	非常用ディーゼル発電機（B）	待機中	待機中	待機中	待機中	
	高圧炉心スプレイ系非常用ディーゼル発電機	復旧作業中	点検作業中	待機中	待機中	
モニタリングポスト (空間線量率の測定)		・発電所構内に7基（No.1～7）設置しているモニタリングポスト（環境中の放射線量を測定）はすべて稼働しており、測定値に有意な変動はありません。 ※当社ホームページでモニタリングポストの測定値（空間線量率）を公開しています。 http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html				
特記事項		<ul style="list-style-type: none"> ・富岡線2号は碍子洗浄装置修理作業に伴い、4/4 8:20～16:46、4/5 7:48～18:20、4/6 7:53～14:00に停止。その後、受電可能状態に復帰。 ・3号機原子炉格納容器内目視点検（H24/2/14～H24/4/5：完了） ・2号機原子炉格納容器内目視点検（H24/3/6～） 				

3号機原子炉格納容器内の目視点検結果

【点検期間:平成24年2月14日 ~ 平成24年4月5日】

平成24年4月5日までに、3号機の格納容器及び格納容器内の設備の外観目視点検が一通り完了しました。

その結果、原子炉冷却材の漏えいがなかったこと、また、格納容器内の各設備・機器・配管等に大きな変形・損傷等はなく、冷温停止機能に影響を及ぼすものはなかったことを確認しました。

なお、プラント停止後の一時的な高温環境の影響による格納容器内面塗装面の一部はがれや、湿度環境等の影響による一部機器表面の錆等が見られたものの、いずれも冷温停止機能に影響を与えるものではありませんでした。

3号機 原子炉格納容器内の目視点検結果 写真

原子炉格納容器内面の塗装剥離



(平成24年3月28日撮影)



(平成24年3月28日撮影)

原子炉冷却材再循環系ポンプ (B)



スタッドボルトの錆 (平成24年2月16日撮影)



スタッドボルト手入れ後 (平成24年3月28日撮影)